



日頃から災害に備えよう!

地域の防災力を高めるためには、日頃からの備えと、家族や地域とのコミュニケーションが大切です。

ふだん、なにげなく暮らしている私たちの日常生活。時には、大きな地震の発生や大自然の脅威にさらされることもあります。災害はいつやってきて私たちを襲うかわかりません。そして、いざ災害が起きたときは、救助が来るのにすごく時間がかかるかもしれません。

皆さんも、この「八重瀬町防災マップ」を参考にして、さまざまな災害に備えて、「自分の身は、自分で守る」という心構えを強く持ちましょう。そして、家族や地域の人たちと協力して、自分を守るための知識を身につけ、普段から備えをしておきましょう。



非常持ち出し袋の保管等注意点

- リュックなどの背負える袋で
- 1人1個ずつ個別に分散
- 季節や有効期限等に注意する
- すぐに取り出せる場所に置く

食糧



そのまま食べられるか、簡単な調理で食べられるもの。缶詰やレトルト食品、切りもち、チョコレート、梅干し、チーズ、調味料など。甘いものはカロリーが高く心落ち着かせ、子どもたちも喜び、安心感を与えることができます。
※赤ちゃんのいる家庭は粉ミルク、哺乳瓶なども。

水



飲料水は大人一人当たり1日3リットルが目安。飲料水以外に炊事、洗濯、トイレなどに使う生活水の確保のため、風呂の水は抜かず、寝る前はポットやかんに水をいれておく。

燃料その他



卓上コンロ、固形燃料や予備のガスボンベは多めに用意を。アウトドア用の携帯コンロも便利。その他、過去の地震災害で最も困った例がみられた携帯トイレのほか、洗面具、生理用品、ビニール袋、キッチン用ラップ、新聞紙など。

家族でチェック!

- ### 貴重品
- 現金(小銭を含む)
 - 車や家の鍵
 - 眼鏡、コンタクトレンズなど
 - 銀行の通帳など
 - 健康保険証
 - 身分証明書(運転免許証など)
 - 印鑑
 - 母子健康手帳

- ### 情報収集用品
- 携帯電話
 - 携帯ラジオ
 - 家族の写真
 - 家族、親戚、知人の連絡先
 - 広域避難地図
 - 筆記用具

- ### 便利品など
- 防災ずきんかヘルメット
 - 懐中電灯
 - 笛やブザー
 - 万能ナイフ
 - 使い捨てカイロ
 - マスク
 - 毛布
 - ビニール袋
 - スリッパ
 - アルミ製保温シート
 - 軍手か皮手袋
 - マッチかライター
 - 給水袋
 - 雨具
 - レジャーシート
 - 簡易トイレ

- ### 清潔・健康のためのもの
- 救急セット
 - 常備薬・持病薬
 - タオル
 - トイレ用ペーパー
 - 着替え(下着を含む)
 - ウェットティッシュ

- ### 食品
- 非常食
 - 飲料水
- ### その他
- 紙おむつ
 - 生理用品
 - 粉ミルク・哺乳瓶

避難に関する3つの情報

避難情報は、災害の危険がせまって避難が必要になった場合に町から出されるものです。避難情報は3種に分かれており、この3種類の情報は、状況の深刻度に応じて出されますので、避難情報がでたら、すみやかに各情報に応じた避難行動を取るようにしてください。

第1段 避難準備(要援護者)情報

- 人的被害の発生する危険性が高まった状況です。
- 避難するのに時間がかかる高齢者などの要援護者やその支援者は避難を始めます。
- 通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常時持ち出し品の用意など避難準備を始めます。

第2段 避難勧告

- 人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況です。
- 通常の避難行動ができる人が自発的な避難を始める段階です。
- 近所の方などと情報を共有し、早めの避難行動を心がけましょう。

第3段 避難指示

- 人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況、あるいは、すでに人的被害が発生した状況です。
- 避難中の人は、速やかに避難を完了するようにします。
- まだ避難していない住民は直ちに避難します。

避難時の服装

- 頭部をヘルメットや防災頭巾で保護
- 上着は長そで
- 手にはなにももたない
- 長ズボン
- 丈夫な靴

- 1 避難は徒歩で自動車は厳禁
- 2 避難の前に火元(ガスの元栓を閉める)電気の確認(ブレーカーから切る)
- 3 正しい情報、正しい行動
うわさやデマに惑わされないように、ラジオやテレビなどで正しい情報を把握しましょう。
- 5 荷物は最小限に

- 3 子供や高齢者の手は、しっかり握って行動
- 4 外出の家族のために避難先をメモ
- 7 ご近所どうし協力しあって避難所へ
- 8 避難所への移動は塀ぎわ、狭い道をさける



地震災害に備えて

沖縄でも大きな地震は起こります！

沖縄県では、本土に比べて地震が少ない地域のように感じられますが、沖縄周辺では1年間に7千回前後の地震を観測しています。平成22年2月27日(土)には、沖縄本島で99年ぶりに震度5弱の揺れを観測しました。

地震による被害を最小限にできるかどうかは、普段の備えとともに、状況に応じてどれだけ冷静な行動をとれるかにかかっています。地震は突然襲ってきます。室内に何気なく置いた家具や家電製品が倒れ、凶器にかわることもあります。家庭内でのちょっとした対策が、あなたの家族の命をまもります。普段から家具や家電製品の固定、倒れた場合に備えた配置、また、建物の耐震化などについて考えましょう。

1 グラスときたら、まず身の安全の確保
 タンスや食器棚の側は危険です。座布団やクッションで頭をおおい、テーブルなどの下にもぐりましょう。

2 揺れがおさまったらすぐに火の始末
 初期消火のチャンスは3回あります。
 ①地震の揺れ始め
 ②揺れがおさまった時
 ③出火直後です。

3 出口の確保も大切
 窓が開かなくなることもあるので、揺れの合間をみて、ドアや窓を開け放ちます。

4 火災が起きたら素早く消火
 万が一出火したら、まず消火器や三角バケツなどの消火用具でボヤのうちに消し止めましょう。大声で隣近所に声をかけ、みんなで協力しあって初期消火に努めましょう。

5 割れたガラスの破片に注意
 地震ではガラス窓が割れて、その破片で大ケガをするケースも多いようです。窓から避難する時は、ガラス破片に注意し、子供は抱いて歩くようにしましょう。

6 かけ崩れや津波に注意
 岸や川べりは地震で地盤がゆるみ、崩れやすくなっている場合がありますので、これらの場所から遠ざかりましょう。弱い地震であっても揺れを感じた時は、ラジオなどで津波情報をよく確認し、急いで高台などの安全な場所へ避難しましょう。

7 家具は動かないように固定
 棚は転倒防止金具で固定し、扉付きの食器棚は簡単に扉が開かないようにフックを付け、ガラス部分には飛散防止フィルムを貼るなどの予防策を。

8 家庭の防災会議
 大地震のとき、家族があわてず行動できるように、ふだんから避難場所、避難経路の確認、家族間の連絡方法やおち合う場所はどこにするかなどを話し合しましょう。



津波災害に備えて

P8-参照

津波と避難行動

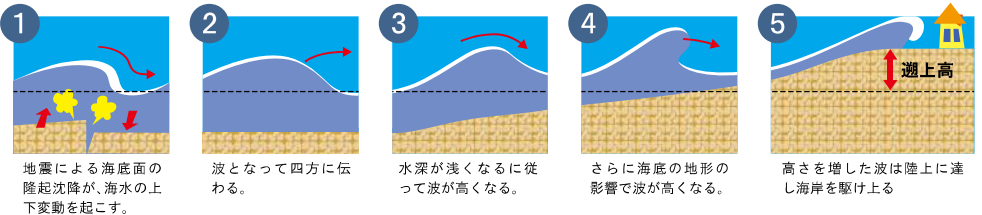
津波が陸に上がってくる時の速度は、1秒間に約10m程度(人が全速力で走る速さ)であるといわれており、津波が目前に迫ってくるのと逃げるのが困難になります。海岸にいる時に津波速報が発表されたら直ちに避難を開始しましょう。特に震源域が陸に近いケースの場合、強い振動波を追いかけないように津波が襲ってきます。

津波警報の内容を確かめている間に第1波がやってくるかもしれません。また、津波警報が出されたかどうか確認できない環境にいる場合も多いので、海岸周辺にいて大きな地震動を感じた場合は津波警報の有無にかかわらず、直ちに高い所へ避難することを心がけて下さい。

津波警報等の種類・とるべき行動

津波警報等の種類	発表基準	津波の高さ予想の区分	発表される津波の高さ		津波警報等を見聞きした場合にとるべき行動
			数値での発表	定性的表現での発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合	10m<高さ	10m超	巨大	陸域に津波が及び浸水するおそれがあるため、沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。警報が解除されるまで安全な場所から離れない。
		5m<高さ≤10m	10m		
		3m<高さ≤5m	5m		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合	1m<高さ≤3m	3m	高い	
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合	0.2m≤高さ≤1m	1m	(表記なし)	陸域では避難の必要はない。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。海水浴や磯釣りは危険なので行わない。注意報が解除されるまで海に入ったりに近付いたりしない。

津波はどのように襲ってくるのか



- 平成19年8月16日に日本から遠く離れた南米のペルーで発生した地震により、20時間以上もの時間をかけて津波が日本へ到着しております。
- 地震の発生した場所が遠くても海岸付近にお住まいの方は、テレビやラジオ等の津波情報に注意してください。
- 津波が海岸を駆け上ることを「遡上(そじょう)」といい、その高さは時には数10mに達することもあります。この高さを「遡上高」といいます。
- 津波は、第1波のみとは限りません。第2波、第3波と繰り返して襲ってくる場合があります。津波注意報、津波警報の解除まで注意が必要です。

高台まで避難する時間がない場合

津波の到達が差し迫り、高台や指定された津波避難場所まで避難する時間がない場合は、近くの頑丈な建物(鉄筋コンクリート造)の3階以上に避難しましょう。





台風災害に備えて

常に最新の台風情報を！

沖縄地方に近づく台風は、最も勢力が強くなったり、移動速度が遅くなったりするため、沖縄地方では長い間、台風の影響を受ける場合があります。平成13年の台風16号は、数日間複雑な動きをしながら沖縄近海に停滞したため、記録的な大雨や暴風となりました。

また、平成15年の台風14号は、宮古島で最大瞬間風速74.1m/s(自動車を横転させる強さの風速)を観測し、甚大な被害をもたらしました。台風災害の防止・軽減には普段からの備えと早めの台風対策、また、台風接近時においては、常に最新の台風情報を入手し、不要不急の外出を控えましょう。

●風の強さと吹き方

予報用語	平均風速(m/秒)	人への影響
やや強い風	10～15	風に向かって歩みにくくなる。傘がさせない。
強い風	15～20	風に向かって歩けない。転倒する人もできる。
非常に強い風	20～25	しっかりと身体を確保しないと転倒する。
	25～30	立てられない。
猛烈な風	30～	屋外での行動は危険。

出典：気象庁(雨と風の表)

停電や断水に備え、非常用品のチェックを



食料、飲料水、懐中電灯、ラジオ、ライター、簡単な医薬品ぐらゐは揃えて、リュックに入れておきます。

無理は禁物

洪水などにより避難路が浸水している場合は、無理に避難をせず、自宅2階や高い所で救助を待ちましょう!

ひざ下程度の深さでも流れが早い場合は非常に危険です!

台風が接近したら、まず家の補強を

補強する場所は、雨戸・窓ガラス・塀・外まわりの物干し・アンテナや看板など。接近に時間がある時は、防水シートや角材なども用意しておきましょう。また、植木鉢は強風で倒されたり飛ばされるおそれがあるので一か所にまとめておくと安全です。



竜巻から身を守る

沖縄県は竜巻発生率日本一!

沖縄県は、100km四方あたりの竜巻発生率が9.1個と全国で一番高い地域です。特に夏場は台風や熱帯低気圧などに伴い多くの竜巻が確認されています。



◀竜巻発生の前兆現象▶

1. 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
2. 雷鳴が聞こえたり、雷光が見える
3. 急に冷たい風が吹き出す
4. 大粒の雨や「ひょう」が降りだす

異変を感じたら頑丈な建物に移動

屋内にいる場合

- 窓を開けない ● 窓から離れる
- カーテンを引く
- 雨戸・シャッターを閉める
- 地下室や建物の最下階に移動する
- 家の中心に近い、窓のない部屋に移動する
- 部屋の隅・ドア・外壁から離れる
- 丈夫な机の下に入り、両腕で頭と首を守る



屋外にいる場合

- 車庫・プレハブを避難場所に行かない
- 橋や陸橋の下に行かない
- 近くの頑丈な建物に避難する
- 地下室や建物の最下階に移動する
- 頑丈な建物が無い場合は、近くの水路やくぼみに身をふせ両腕で頭と首を守る
- 飛来物に注意する



大雨災害に備えて

局地的大雨から身を守る!

P9-参照

近年、局地的な大雨により、河川や排水溝などの思わぬ場所で急激な増水(鉄砲水)被害が発生しております。これら急激な増水(鉄砲水)を事前に予測することは困難ですが、「付近に黒い雲があり周辺で大雨が降っている」「周辺で雷鳴が聞こえる」などの現象を確認した場合、上流で雨が降っている可能性がありますので、河川や排水溝などの場所から直ちに離れましょう。

また、このような状況下で、子供たちが河川付近などで遊んでいる場合は、地域で声を掛け合い、子供たちを危険から守りましょう。

●雨の強さと降り方

予報用語	1時間雨量(ミリ)	人の受けるイメージ
やや強い雨	10～20	ザーザーと降る
強い雨	20～30	どしゃ降り
激しい雨	30～50	バケツをひっくり返したように降る
非常に激しい雨	50～80	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)
猛烈な雨	80～	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

出典：気象庁(雨の強さと降り方)

大雨や洪水などの警報と注意報について

警報は重大な災害が起こるおそれがある場合、注意報は災害が起こるおそれがある場合に発表されます。これらの警報・注意報は、市町村ごとに発表されます。その他、豪雨や長雨によって土砂災害の危険性が高まった場合には、「土砂災害警戒情報」が発表されます。

※市町村ごとの警報・注意報の発表

状況は、気象庁ホームページで確認することができます。



山間部・傾斜地・がけ近くは、土砂災害に注意

大雨や集中豪雨で発生する土砂災害の前兆現象として、

- 小石がパラパラ落ちる
- 地面にひび割れができる
- 斜面からにごった水が流れ出る

これらを発見したら注意しましょう。

また、避難勧告がでたら、すぐに避難しましょう。



雷の被害に あわないために

雷の音と稲妻の間隔が近くなったら、家の中に入り、テレビなどのコンセントを抜き、部屋のまん中にいるようにしましょう。また、野外では体を低くし、雷が遠ざかるのを待ちましょう。



不発弾を見つけたら

絶対に触らないで下さい! その場から動かさないで下さい!

陸上で見つけたら
すぐに

警察へ110番
しましょう!



海中で見つけたら
すぐに

海上保安本部へ
118番しましょう!

「不発弾」とは、戦争の時に使われた砲弾や、航空機から投下された爆弾等で、地上や海に落下しても、発火せず「不発」となったもの、あるいはその疑いのあるものを一般に不発弾と呼んでおります。

このような不発弾は、起爆装置(信管)の安全装置が外されており、何らかの衝撃で何時でも発火装置が起動(作動)する状態にあることが予想され非常に危険です。また、長い年月によって風化し姿、形が変わりはててしまい、見分けがつかない場合もあります。

県内で発見される主な不発弾

